

大阪湾漁場環境速報

2021年 3月 5日発行
兵庫のり研究所

全域においてスケルトネマを優占種としてキートセロス等数種の珪藻が見られており、発生量の多い海域では赤潮として確認されました。窒素は、陸水等の影響が見られた地点を除き海峡部（明石・紀淡）で $2 \mu\text{g-at/L}$ 台、湾中央から北部で概ね $1 \mu\text{g-at/L}$ 台後半、淡路東浦沖で $1 \mu\text{g-at/L}$ 以下の値でした。

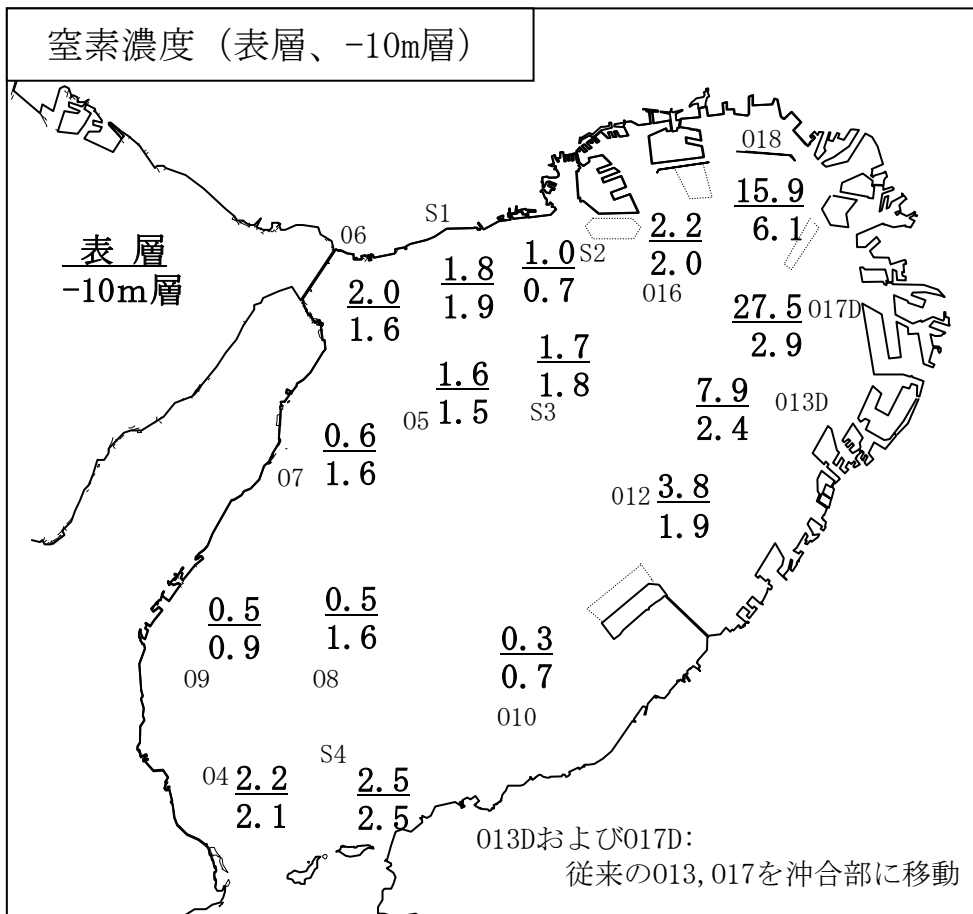
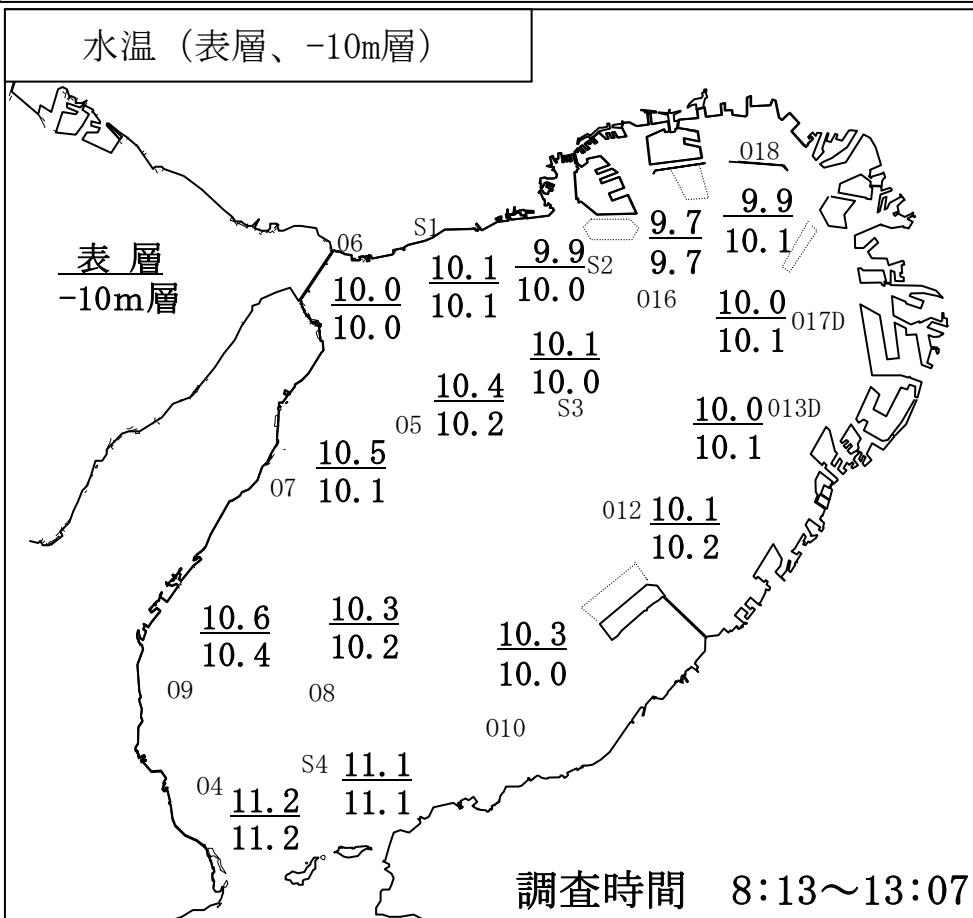
(水温) 表層は湾内 $10\sim 11^\circ\text{C}$ 台で、平均 10.3°C 。概ね平年並み。-10m層は平均 10.2°C （概ね平年並み）。

(塩分) 表層平均 31.88psu (平年 31.26)。-10m層平均 32.06psu (平年 32.01)。

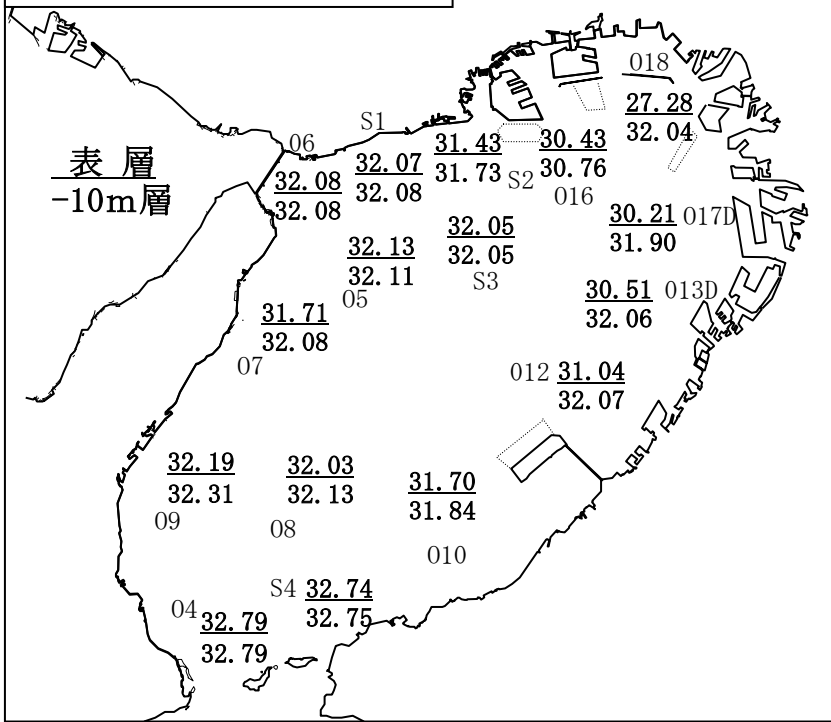
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均 $1.6 \mu\text{g-at/L}$ 、リンは平均 $0.19 \mu\text{g-at/L}$ 。-10m層(平均)は、窒素 $1.6 \mu\text{g-at/L}$ 、リン $0.24 \mu\text{g-at/L}$ 。全域で小型珪藻スケルトネマが優占的に確認され、和田岬から湾奥・岸和田にかけては赤潮が、関西空港南から淡路東浦周辺では弱い赤潮として海水の着色が見られた。他、キートセロスやタラシオンラも散見される。湾奥や大阪府沿岸域では栄養塩がある事からこれら小型珪藻が増殖し続けており、ここ数日の北東寄りの風波や潮流で湾全体に拡散しているものと予想される。

上段 (今回値)	2021年 3月 4日調査
中段 (昨年値)	2020年 3月 4日調査
下段 (平年値)	3月上旬

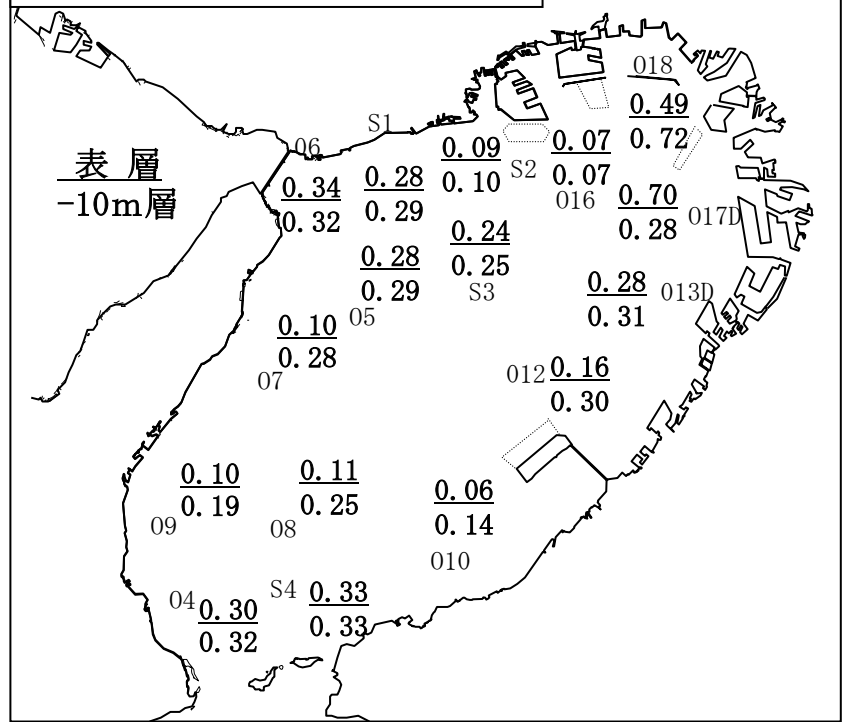
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 ($\mu\text{g-at/L}$)	磷酸 ($\mu\text{g-at/L}$)
04	11.2	32.79	2.2	0.30
	12.4	33.00	3.2	0.36
	11.0	32.53	3.4	0.31
05	10.4	32.13	1.6	0.28
	11.1	31.53	0.5	0.14
06	10.0	32.08	2.0	0.34
	11.3	32.32	2.7	0.41
07	10.5	31.71	0.6	0.10
	11.3	32.09	1.0	0.28
08	10.3	32.03	0.5	0.11
	11.4	32.04	0.1	0.16
09	10.6	32.19	0.5	0.10
	11.5	32.17	0.2	0.17
010	10.3	31.70	0.3	0.06
	11.3	31.71	0.2	0.07
012	10.1	31.04	3.8	0.16
	11.5	31.24	2.9	0.10
013D	10.0	30.51	7.9	0.28
	11.3	30.93	2.0	0.03
016	9.7	30.43	2.2	0.07
	11.2	29.54	1.9	0.02
017D	10.0	30.21	27.5	0.70
	11.3	30.35	19.2	0.61
018	9.9	27.28	15.9	0.49
	11.3	29.22	16.4	0.40
S1	10.1	32.07	1.8	0.28
	11.3	32.11	1.8	0.27
S2	9.9	31.43	1.0	0.09
	11.1	30.53	0.2	0.01
S3	10.1	32.05	1.7	0.24
	11.1	30.81	0.1	0.01
S4	11.1	32.74	2.5	0.33
	12.0	32.72	2.4	0.30
	11.0	32.45	2.8	0.28



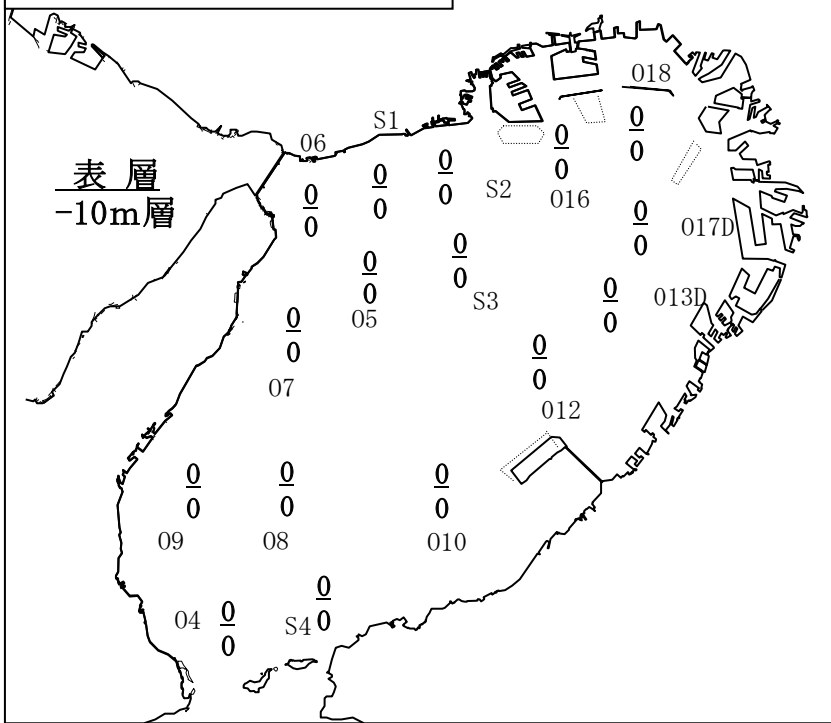
塩分 (表層、-10m層)



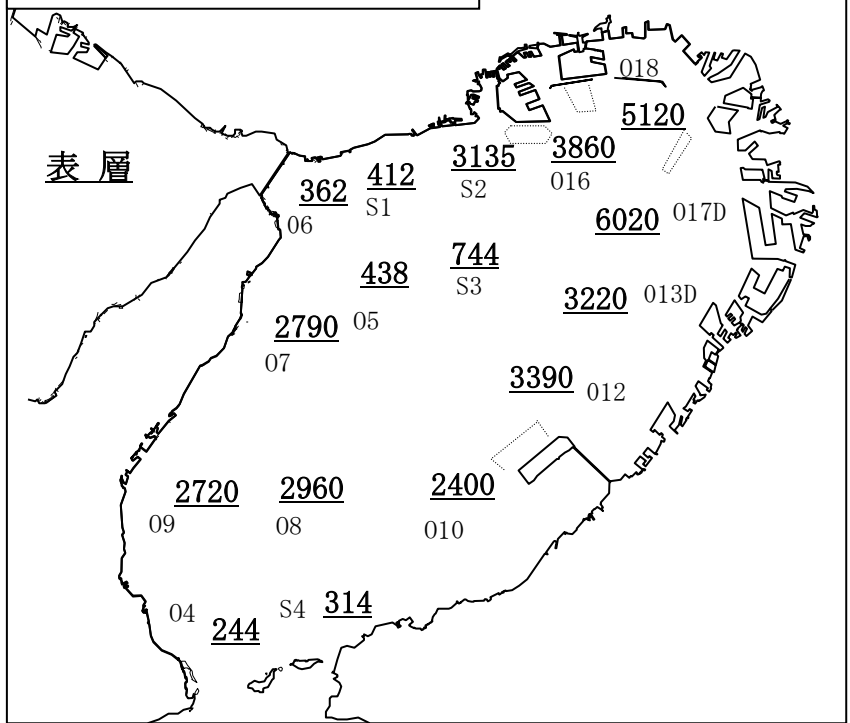
リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)



ユーカンピア (細胞/ml)

